

【研究分担課題名】 レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）に基づいた医療費削減効果分析

研究分担者名：佐藤 大介（国立保健医療科学院・主任研究官）

研究分担者名：白岩 健（国立保健医療科学院・主任研究官）

研究要旨

研究要旨：レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）に基づいて HIV 感染者における医療費削減効果分析を行う。抗 HIV 薬の 3 剤併用療法から 2 剤併用療法への切り替えによる削減効果分析や早期診断および検査体制の充実化に伴う医療費削減効果の推定を行う

A. 研究目的

欧米を中心とする先進国においても、HIV 感染症に対する医療費削減に関する提案などがなされている。HIV 感染者に対する医療費の削減や副作用軽減のために、従来から行われている 3 剤併用療法から 2 剤併用療法にて治療を行う臨床研究が数多く発表されており、DHHS ガイドラインにも掲載された。今後 HIV 感染症の治療費削減に効果が得られることも期待されている。また HIV 感染者のウイルス量が検出感度以下ならば感染を広げないという概念が浸透し始めており、結果的に新規感染者を減らし医療費を減少させる効果が期待される。本研究では HIV 感染者に対する医療費を軽減するための介入の提案とその効果推定を行う。

B. 研究方法

①3 剤併用療法から 2 剤併用療法への切り替えが可能な患者に関する条件設定を行う。日本における薬剤耐性株の状況や HIV 感染者における慢性 B 型肝炎の罹患率などのデータを既報などから調査して、抗 HIV 薬にて治療を受けている患者に対する 2 剤併用療法への切り替えが可能な割合を推測する。抗 HIV 薬のキードラッグとしてインテグラーゼ阻害剤およびを使用している患者に対してはドルテグラビルとラミブジンの 2 剤併用療法に、プロテアーゼ阻害剤を使用している患者に対してはダルナビルとラミブジンの 2 剤併用療法に切り替えることを前提とする。

②早期治療および検査体制の充実化による新規感染者の減少効果と将来的な医療費削減効果の推定に関して、他国における既報との整合性を確認しながら数理モデルを組み解析を進める。

C. 研究結果、D. 考察

Cost-effective analysis（費用効果分析）を行うにあたり、HIV 感染者における状態推移シミュレーションが検討された。欧米ではハーバード大学の研究室が作成した CEPAC モデルを利用して各費用効果分析に関する研究を行っている。しかしながら CEPAC モデルは米国で開発されたもので、また QALY 尺度に関して QOL 値（EQ-5D など）に基づいていないことが懸念された。日本人をモデルとした HIV 感染者における状態推移シミュレーションは既報がなく、応用研究も発表されていない。CEPAC モデルでは QALY の QOL 尺度は LY（life year；生存年延長）であるので、それに準拠した形でモデルを組み、作成した健康状態に対応する費用を、NDB を用いて表現することを検討することになった。

E. 結論

NDB を利用して HIV 感染者における状態推移シミュレーションを作成して費用効果分析のモデルを構築している。

G. 研究発表、H. 知的財産権の出願・登録状況 なし